

「みたまのふゆ」とは、私共が常に衰りたたいてゐる大神様の恩徳、加護、御神威を尊称した言葉です。人間は自分ひとりの力で生きてゐるのではなく、つねに「みたまのふゆ」をいただいで、生かされてゐるのです。

社務所修造上棟祭を齋行

本年は五月一日に「劍璽等承継の儀」「即位後朝見の儀」がとりおこなはれ、「令和」の御代を迎へました。

さらに十月二十二日には「即位礼正殿の儀」がおこなはれ、黄櫨染御袍を召された陛下が高御座に登らされて即位を内外に宣明され、十一月十四日、十五日には大嘗祭もゆかしく行はれ、まことに慶祝すべき一年でありました。

この御大禮奉祝事業として、社務所の改築を取り進めてまゐりましたが、八月二十九日の地鎮祭以降、工事も順調に進捗し、十月十八日には上棟祭の運びとなりました。

当日は午後三時より祭典を執行し、祝詞奏上に続き、「引き綱の儀」「槌打ちの儀」を古式に則り執り行ひました。

これらの儀式には実際に工事を担当してくださる大工さんたちが、「工匠」として烏帽子に直垂の装束をつけてご奉仕されました。

棟木につけた紅白の綱を総代一同が手にして、「工匠」が「エイエイエイ」と高らかな声とともに御幣を振るのに併せて、棟木を引き上げる所作をしました。続いて屋根の上の「工匠」が棟木を打ち付ける「槌打ちの儀」も滞りなく行はれました。

(上の図は引き綱の儀。二・三面に詳細記事)

令和二年祭事暦

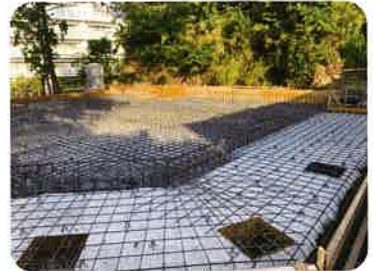
- ◎ 一月 一日 歳旦祭
鶏鳴神事
- ◎ 二月 三日 天長祭
- ◎ 三月 二日 春季大祭
祈年祭・合祀神例祭
- ◎ 五月 五日 例大祭
神社本廳獻幣使参向
琵琶島弁天社へ神輿渡御
- ◎ 四月 二九日 昭和祭
- ◎ 六月 三〇日 大祓式
大祓人形納め・茅の輪神事
- ◎ 七月 五日 天王祭出御祭
本社神輿御霊入・宮出渡御
- ◎ 七月 七日 三つ目神楽
無形文化財湯立て神楽
- ◎ 七月 二二日 天王祭巡幸祭
天王神輿町内巡幸
- ◎ 七月 一九日 手子神社例祭
- ◎ 九月 一日 浅間神社例祭
- ◎ 九月 一七日 熊野神社例祭
無形文化財湯立て神楽
- ◎ 一〇月 一日 手子神社秋祭
無形文化財湯立て神楽
- ◎ 一一月 二三日 秋季大祭
新嘗祭
- ◎ 二月 八日 歳の市
開運熊手授与
- ◎ 二月 三一日 大祓式
大祓人形納め・古札焼納式
- ◎ 毎月 一日 月次祭

写真でみる社務所建設の経過

七月下旬、天王祭終了後、旧社務所の解体を開始。九月四日には井戸埋め清祓。



八月二十九日、午前十一時より地鎮祭を執行しました。



基礎のコンクリート工事に続き、足場やぐらが組みられました。



十月に入ると木材が次々搬入され、柱や梁がくみ上げられました。



二階の天井から屋根まで組み上がると、次は上棟祭。



上棟祭齋行



上棟祭祭壇⑤と屋根飾り⑤
三本御幣と天の矢・地の矢。



十月十八日、上棟祭の運びとなりま
した。工務店の大工さんたちが直垂
装束で「工匠」の所役をおつとめさ
れました。



神職ならびに「工匠」のみなさん



「引き綱の儀」 一面写
真のように、総代さん一同
で棟木に結んだ紅白綱を引
きました。綱は「博士杭」
といふ杭に結び着けます。



「槌打ちの儀」 幣振り役は「千歳棟・万歳棟・永永棟」
と唱えながら御幣を振り、盤木を打ちます。それに合わ
せて、屋根上で「オー」と答えて棟木を打ち付けます。

「散餅の儀」 式典の最後に宮司と峯尾責任役員と
が階上から紅白の餅をまきました。



瀬戸神社略縁起

大昔、今の泥亀町、大川町、釜利谷町小泉のあたりまで海が入りこみ、柳町や六浦町の塩場、南六浦、内川町内もすべて海でした。そして洲崎と瀬戸の間は、潮の干満時には急流が渦を巻き、容易に渡れぬ難所でした。古代人がここに海神を祀つたのが瀬戸神社の起原で、今から千五百年以上も前（古墳時代）のことです。

治承四年（一一八〇）鎌倉に入った源頼朝が、日頃崇敬する伊豆三島明神をこの霊域に遷祀してからは、六浦港の守り神「瀬戸三島大明神」として鎌倉幕府をはじめ上下の尊信をあつめ、その後、足利氏、小田原北条氏の崇敬も篤く、江戸時代には名勝金沢八景の中心にあつて、百石の社領を有する大社として、江戸の町民の間にも信仰者がひろがりました。

明治六年郷社に列格、戦後は宗教法人となり神奈川県神社廳敬幣使参向神社に指定。現在の社殿は寛政十二年の建造で、昭和四年の屋根を銅葺きに変更、平成二十四年には御屋根替へと修築の御修業事業が行はれました。

御祭神

大山祇（おほやまつみ）の命

伊豆国三島大社、伊予国大三島の大山祇神社の御祭神と同じ海上交通の神であると同時に、水源地を司る山の神であり、金属、岩石、木材などの建築資材や、森林、鳥獣に至るまで、一切の生活資源は、この大神の恩徳によるものです。

須佐之男（すさのを）の命

天孫瓊瓊杵尊の御后となられた木花咲耶姫の御父神にあられます。配祀の神の須佐之男命は、天照大神の御弟神で、八俣の大蛇を退治された神話は有名です。自然界、人間の罪がれや悪者を追ひ祓ひ、人々の苦しみを除いてお守りくださる神様で、別名を「天王さま」と仰がれておます。七月の天王祭りには大神輿で氏子町内をくまなく御巡りになります。

菅原朝臣道真公

天満大自在天神とも尊称し、一般には「天神さま」と親しまれて呼ばれます。書道、学問、詩文、和歌に秀でてをられただけでなく、至誠、尽忠、孝道、正義、国家鎮護の神さまでもいらつしやいます。

釜利谷町鎮座

手子神社

釜利谷町総鎮守の手子神社は、もこの地の領主伊丹左京亮が、文明五年（一四七三）瀬戸神社の御分霊を宮ヶ谷の地におまつりしたものです。

延宝七年（一六八〇）、伊丹氏の子孫、三河守島家の子で、江戸浅草寺の智樂院忠運僧正が、現在地に遷祀して以来、釜利谷一郷の総鎮守として信仰を集めました。明治六年村社に列格、大正十二年の大震災で倒壊しましたが、同十五年再建し、昭和四十五年には御屋根も総銅板葺きに改修し、一段と御神威を加へました。

御祭神は瀬戸神社と同じく大山祇命、例祭日は七月十七日。現在はその後の日曜日ですが、十月十五日（前後の日曜日）の秋祭りには、古式豊かな湯立神楽が昔ながらの伝統を守つて行はれます。

境内の洞窟にお祀する竹生島弁才天は、金沢八景のひとつ「小泉の夜雨」の中心地にあつたもので、厄除け、開運の福神として信仰されておます。

朝比奈町鎮座

熊野神社

社伝によれば、鎌倉に幕府を開いた源頼朝が、その東北の守りとして熊野三社をここに勧請したものとひます。仁治二年（一二四一）、鎌倉幕府は朝比奈切通しの開鑿に全力を挙げ、執権北條泰時は自ら現場に臨んで工事を指揮しました。社殿の建立もこの頃行はれたことせう。

その後、元禄八年（一六九五）、地頭加藤太郎左衛門尉長勝が神殿を再建してから、里人の崇敬を集め、相模国鎌倉郡峠村の鎮守として崇敬されてきました。安永及び嘉永年間には再度の修築も行はれて、明治六年村社に列しました。

昭和五十三年、氏子一同の熱意を結集して、入母屋造、総檜、銅板葺きの本殿を完成、更に平成御大典記念事業として新たな拝殿を建築竣功して今日に至つておます。御祭神は速玉男命、伊邪那岐命、伊邪那美命の三柱です。

谷津町鎮座

浅間神社

谷津の町の鎮守として古来崇敬されてきました。伝説では御堂関白太政大臣藤原道長が当地に来遊、能見堂から金沢の景勝を鑑賞したときに、正面の目下にあるこんもりとした山を塗桶山と名付け、そこに浅間大神を勧請したといはれます。道長の来訪は史実ではありませんので、創建の詳細な時期は不明ですが、富士山信仰が関東一円に広まった中で当地にも勧請されたものでせう。ご祭神は富士山の浅間神社と同じ木花之佐久夜毘賣命です。特に安産の御利益があり婦人の崇敬が篤かつたと伝へます。

御祭神が天孫瓊瓊杵尊の御后となり、御子神等を出産されたことによるものでせう。祭礼は六月一日の開山祭と九月一日の例祭。例祭（近くの土日曜）には谷津・東谷津・泥亀の各町内で神輿の巡幸その他の賑やかな行事が営まれます。寛正四年（一四六三）西山松眠といふ医師が神僕田を奉納、以来、例祭には赤飯をお供へし、お下がりは崇敬者婦人が分けたといふことです。

瀬戸神社

〒三三六-〇二七
横浜市金沢区瀬戸十八ー一四
（電話）〇四五-七〇-一九九九
（FAX）〇四五-七〇-一九九九
<http://www.setojinja.or.jp>